

令和５年度第２回 川崎市社会教育員会議幸市民館専門部会 摘録

日 時 令和５年９月２５日（月） 午後２時～午後４時００分

場 所 幸市民館 第１会議室

出席者 浦山委員、大塚委員、片岡委員、柴田委員、夏井委員

欠席者 小泉委員、梅原委員、松井委員

事務局 加藤幸市民館長、鈴木日吉分館長、松本社会教育振興係長、松下管理担当係長

１ 開 会

２ 館長あいさつ

３ 会長あいさつ

４ 議 事

（１） 前回専門部会の摘録について【資料１】

浦山議長 委員からの疑義無し。内容について参加委員から承認された。

（２） 管理運営・実施状況等について

事務局から【資料２】に基づいて説明

【質疑応答】

大塚委員 大ホール客席座面補修は、貸出しを止めずに行うのか。

事務局 貸出しは止めずに休館日に行っていく予定。毎年１００席程度の補修を行っている。

浦山委員 排気ファンモータ修繕工事について、この排気ファンというのは火事になったときの排気のことか。

事務局 違います。通常市民館の全館の空調は、吸気と排気をすることで空気を循環させて換気をしているが、その排気ファンの方からベアリングが劣化して異音が生じているため、モーターが破損する恐れがあるので、そちらについて修理をする。

浦山委員 工事期間が長いので、気になった。

事務局 工事期間については一日で終わるが、業者等に見積もりを取っている段階で工事日程が決まっていないため、長期間の記載になっている。

（３） 社会教育振興事業について

ア 幸市民館社会教育振興事業

イ 日吉分館社会教育振興事業

いずれも事務局から【資料３－１】、【資料３－２】に基づいて説明

【質疑応答】

夏井委員 幸市民館の夏休み基地について、環境局による資源物とごみのゆくえという
のがあるが、これは講演会みたいなかたちで行われたのか。

事務局 これは魚釣りの要領でゴミを釣り、それが何ゴミに分別されるかを考えるというもので、その後環境局のパンフレットを使いながらリサイクルの仕組みを学んだりするコーナーであった。

夏井委員 一日の中で350人きたということか。

事務局 午前中は2時間で20人しかきていないと言われたが、午後一気に人が入って来て、対応しきれないほどであったと聞いている。

夏井委員 それだけの人数を一日で参加してもらうには、どこの会場を使ったのかと気になった。

事務局 午後は大混雑だったので、流れ作業のようになったと聞いている。

夏井委員 他のものが体験型のように感じたので、どのように行ったのか気になった。
日吉分館のさくらフェスタの実行委員は何人くらいいるのか。

事務局 サークルの代表者で参加を表明しているのが、8名くらい。さくらフェスタ実行委員の方は5名くらい。

夏井委員 では13名くらいですね。

浦山委員 幸市民館の障がい者社会参加学習活動の中で、ボッチャの大会に有志がでるという話があったが、有志とはどの範囲のことか。

事務局 活動とは関係なく、興味のある人がチームを作って出る。参加者にもボランティアにもチラシを配った。その中で、参加者とボランティアの割合が2:1くらいで、参加者の方が出たいと言っている割合が多いので、ボッチャの3人チームを2人の参加者と1人のボランティア、または2人の参加者と軽度の参加者というような組合せでチームを作ろうとしているところ。

(4) 調査・審議事項について

浦山委員 資料4-1について、今年度2回目の審議ですが、12月3回目、2月が最後という流れでよいですか。

資料4-2についてですが、委員の中で出していただいたもの、夏井委員が出していただいたものをベースに、片岡委員が視点を加えたものについて、自分が簡単な草案を作らせてもらった。それに対し、夏井委員に他の委員が言っていたことを追加してもらった。それに対し、片岡委員からコメントをもらった。

今日の進め方については、現段階での夏井委員から修正いただいた内容を説明して頂き、その後、片岡委員からコメントいただいたものに対しての説明をしていただく。現段階を共有する。その後、まとめ方について皆さんと議論をしていきたいと思っている。

夏井委員から【資料4－2】に基づいて説明

【意見交換】

夏井委員 グラフ等の出典元をきちんと記載した方がよい。

片岡委員から【資料4－3】に基づいて説明

【意見交換】

浦山委員 今、夏井委員、片岡委員にお話しいただいたものについて、わからないところがあれば現時点のものに差込みをしていって、おかしいところがないか見ていきたい。次回までに仕上がればと思っている。

夏井委員 片岡委員の説明にあった生涯学習交流集会で90歳の方が発言されたという記載は幸市民館での出来事か。

片岡委員 幸市民館で3, 4年前に自分が講師として参加したときの、幸市民館での話である。

夏井委員 でしたら、幸市民館でそのようなことがあったと記載をした方がはっきりしてよい。また2の青少年事業の(1)の区民のボランティアスタッフの協力なくしては成立しないというところで、市民館の職員と一緒に働けるという表現を活動できるに変えた方がよい。その方が、一緒になってやるというのがわかりやすい。3ページの市民館利用団体との連携のところ、～聞いたことがあるという表現を多かったや、実際にやっているとした方がいい。

大塚委員 3ページ目の(2)(3)を入れ替えてというのは、かわさき市民アンケートの内容と幸区高校生アンケートの順番を入れ替えるという意味でいいか。

片岡委員 そのとおり。しかしその順番に意図があるようなら、入れ替えをしなくてもいい。

夏井委員 市民アンケートの方が上というわけではないが、幸区高校生アンケートの母数が少ないので、あえて先にしている。しかし母数が少なくても大切な意見ということで記載はしたい。

片岡委員 タイトルを高校生アンケートとするなど、なにか考えた方がいい。限定した声もあるということを記載してもよい。

浦山委員 市民館事業の中で、市民館でいえば謎走中、日吉分館でいえばあそびっ子クラブのような活動で、参加者が企画、運営側に回って活動を繋げていっているような事業があれば報告をしてほしい。

事務局 日吉分館のあそびっ子クラブでは事業後にとったアンケートから見えることを報告する。参加した子が何年か経ってボランティアになって戻って来るといい循環が出来ている。アンケートの自由記入欄に、楽しかったが最高学年になってしまいもう来られないが、ボランティアとしても参加したいという記入が見られた。市民館事業の現状と課題(日吉分館)というのをつけさせていたが、職員と事業後に話し合ったことをベースに記載している。幸市民館

とは事業の内容が違うが、社会教育振興事業を 11 事業やっている。講座は地域性を反映しているのか、子育てに関することが多い。人気も高い。通常は 5 回講座くらいだが、今年に関しては全 9 回で行ったため、参加者も多い。日吉分館では、市民実行委員というのが以前からあり、各事業のアドバイスをしてもらって、市民意見を取り入れた事業を実施している。あそびっ子クラブやさくらフェスタなどもそう。分館は図書館も併設されているので、子どもが集まった事業終わりに、図書館の読み聞かせイベントを開催するなどして、参加の流れを作っている。

課題に関しては、あそびっ子クラブの子ども、保育活動事業でいえばお母さんが、何年かたったときにボランティアになって帰ってきてもらったりしている。ボランティアの好循環が生まれている。但し、その他の事業ではボランティアや市民講師のなり手がいない。サークル活動をされている方は多いが、高齢化してきている。活動自体の継続がままならなくなっており、コロナ禍で一度切れた活動が再開されない。また地域性か、職員のアナウンス不足か、市民自主事業の新しい提案者がいない。市民実行委員に事業に携わってもらってるが、募集をしても新しい委員が集まらないので、人が入れ替わらず、新しい意見が出ないため、毎年同じような事業を継続してやっていくようになってしまう。

幸市民館では、今回のテーマに合った内容のアンケートがなかったために、新たに青少年事業でアンケートを実施した。設問で、これまでに他の講座等に参加したことがあるかという問いには、はじめて参加した 28 名、参加したことがある 13 名で、こちらは市民館ジャックや夏休み基地といった市民館で開催されるイベントに参加したことがある顔ぶれであった。次の設問の、今回の謎走中をどこで知りましたか、に関しては圧倒的にチラシが多数であった。これは幸区内の小学 5、6 年生に全校配布をしたためであると思われる。また口コミが 5 名いるが、自分がチラシをもらったときは行く気がなかったが、チラシを読んだ友だちに誘われたので参加したという声もあり、実際に参加して楽しいと感じた友だちからの口コミはチラシ以上の効果があると考えられる。実際、今回のボランティアは、前回ボランティアをした子に誘われてきた人が殆どで、口コミ力の高さがうかがえる。チラシを見て参加したボランティアの中学生は、前年度の参加者であり、自分が事業の対象年齢から外れてしまったので、ボランティアでもいいから関わりたいと言っている。次の問の、今回楽しかったかというものに関しては、ほとんどの方が楽しかったと答えており、2 名の子のみ楽しくなかった寄りに付けているが、謎が全て解けなかった方だったため、悔しさが表れた結果ではないかと思われる。最後の問の、謎走中のように中高生ボランティアが活躍しているイベントがたくさんあるが、自分が中学生になったときにやってみたいものがあれば教えてください、という問に関しては、今回参加した謎走中の企画、

運営が過半数を超えており、次いで市民館のお祭りなどと答えている。複数回答可としていたため、参加者の方がいいという選択肢を謎走中の企画、運営を選択した方たちが、参加もしたいと選択をしているため、こちらの意図に反して、ボランティアではなく参加者でいたいという意図は伝わらなかった。しかし、とにかくイベントが楽しかったので、同事業に関わりたいという気持ちが伺える。このアンケート結果から、参加して楽しかった事業の対象年齢でなくなったときに、参画者になって同事業に関わろうと姿が見られる。実際に今回のボランティアの一人は、昨年の同事業の参加者である。昨年同事業のボランティアをしていた高校生は半数以上が受験のため一度離れたが、落ち着いたらまたボランティアをやりに戻って来ると言っていた。また他の高校生は、同事業のボランティアには手を挙げなかったが、昨年度市民館事業に関わって、情報が色々と手に入るようになり、他の事業にボランティアとして活躍の場を移すなど、自分にあったものを選択する姿も見られ、同事業を入り口として、他の事業への視野が広がるといったきっかけ作りにもなったかと思う。

浦山委員 面白い内容だと思い聞いていた。片岡委員の話しの中にあった、子どもの頃から参加することが大事という話にも繋がっている。

夏井委員 指定管理者制度導入に関して、幸図書館が令和7年度に導入するという情報を見たが、どのようになっているのか。

事務局 恐らく指定管理者制度を導入する図書館として記載があったものと思われる。幸図書館の指定管理導入時期については、幸市民館の改修工事が終わってから一緒に導入をするので、まだ決まっていない。

条例案の中では高津と中原の市民館が令和6年度に選定して、7年度導入となっている。

夏井委員 ということは、幸図書館は幸市民館と同時に指定管理になるということか。

事務局 一つの指定管理者に両方やってもらうことになる。

夏井委員 差し迫った問題なら、それも鑑みながら決めていかなくはないかと思った。しかし令和7年度には中原、高津に指定管理者入ってしまうので、そこが事例となって、他の市民館も同じような仕様書になることを考えると、どのように事業が展開されていくのかという心配はあるので、この機会にこれは市民館事業として必要であると言っていくべきだと思う。

浦山委員 具体的にはどういうことを言っていくのか。言うべき中身はどんなことか。

夏井委員 営業目的、カルチャーセンター化になるような事業、公でやる事業なので、障がい者や外国人、人権にかかわる問題など、儲けにならないので、民間事業者が手を出しにくい。人が集まるイベント的な事業はやっていくが、地道に重ねていくような事業、一年では解決できないような事業、先ほど報告があった、あそびっ子クラブや謎走中のような積み重ねてきた事業が、指定管理になっ

て失われてしまうという危惧がある。人権、引きこもり等、公の施設としてカルチャーセンターでないということを強く訴えたい。

浦山委員 公共の福祉に対する少数の人たちにも配慮をするような。

夏井委員 福祉ではない。すべての人たちの学ぶ権利の場として、あってほしい。特に障害があるとか、引きこもりであるとか、営利を目的とした企業では、手を出さないような事業をしっかりとやって頂きたいし、地域とのつながりというものをも今後指定管理の中でやっていかななくてはならないということを強く訴えたい。

大塚委員 それは大きな3番の(3)の後ろの指定管理者制度導入の際の仕様書に入れる要件として頂きたいと入れるようにするか。

浦山委員 すべての人たちの学ぶ権利を損なわないような文言をあえて入れてくださいということを記載する。

片岡委員 日吉分館の方から現状と課題が出されているが、幸市民館にも当てはまることが多いかと思うがいかがか。ボランティアや市民講師が見つからない、市民委員による企画が同じようなものが継続してしまうという点についてどうか。背景に何があると職員は見ているのか。

事務局 日吉分館が平成15年に立ち上がってから、市民の要望に応える形でできている。出張所に市民館と図書館の機能がついた。建て替え時にワークショップに出られた方々は施設を積極的に使っているが、人が入れ替わっていない。継続して利用している市民に対して、3年程度しかいない職員が大々的に変えるということは難しいと思う。求心力があるかたが辞めてしまうと、周りの人も一緒に辞めてしまう傾向にある。スタッフを勝因だけでなく、市民の中から見つけていかなないと事業自体が行き詰まっていくのではないか。

幸市民館にも同じ課題があるかということ、ここに記載があるものに関してはそうではなく、ユーザーが日吉分館より多い分、市民からの声は届きやすいと思う。市民からの声を職員が、どの事業で行ったら効果的かを考えて、実施をしている。例えば、市民館の講座として行うのか、市民館コミュニティ推進事業として行うのか、市民自主事業が相応しいのか等、市民の方と相談をして、より効果的なものに当てはめて実施をしている。市民のやりたいを、気持ちに見合った媒体に振り分けをして、市民との活動を一緒にしている。

確かに市民自主事業の提案が集まりにくい年もあるが、必ずしもそれが相応しい提案でなかったときに、市民館コミュニティ推進事業が向いていると思えばそちらに振り分けを行っているので、現時点では市民館コミュニティ推進事業に偏っているようにも見えるが、スキルアップ講座等を提供することで、もう少し大きな講座をお願いできるようになったりすると考えている。

片岡委員 確かに幸市民館と日吉分館では規模が違うので、幸市民館の方が市民の声が

届きやすいということ。日吉分館は、市民の要望に合わせて作られたという側面が強い。

浦山委員 ドリームミュージカルをやっている方々は、40代から50代の方々と、決して若いとは言えないが、今のユーザーよりは若い世代と言える。その人たちは元々川崎の人たちではない、新しい住民なので、そういう方たちも活躍し始めているパワーのある方々なので、是非活用をして頂ければと思う。

大塚委員 市民館職員の入れ替わりというのが、背景にある。1年2年経って、ようやくわかってきたところや、3年目でやろうとしていたことが中途半端になったまま、職員が入れ替わってしまう。そういった意味でいうと、指定管理者制度導入には期待しているところもある。もう少し継続性のある人間関係が期待できるかなと思っている。中身は別として。

浦山委員 片岡委員の言っていた中間支援者という形でつなぎをする方を入れる。

夏井委員 前回の専門部会の際に教育委員会から報告があったワークショップの中で出た市民館・図書館に対する要望の中に、フリーで入れるスペースがない、講座がなければ市民館に入れないと思っている市民がいる、自分には関係のない場所だと思われてしまう市民が多くて市民館から足が遠のいてしまう原因かなというの、報告書のどこかに記載したいと思う。

浦山委員 最近はこちらでフリースペースが取り入れられている。部屋が必要。中原の市民活動センターのフリースペースは結構使われている。

夏井委員 元々フリースペースとして作られていればよいが、防犯等の問題があって、巡回をしなければならなくなったりしてしまう。職員の負担が増えてしまうという問題もあるが、そういう場があると、いつでも来られる場所という意味での市民館というのが、要望でしかないかもしれないが、なったらいいなと思う。例えば、どこかの部屋を改装するでもいいかと思う。

浦山委員 学校も学校の解放ということで、教室の多様化と言っているが、セキュリティの問題等があり、やっぱり広がらない。すぐにどうこうしてということではないが、要望としてそういう声があるということを記載していく。

今後の進め方としては、本日の意見や質問を11月までに、今ある夏井委員の報告書に片岡委員のコメントを差し込んで、そこに本日市民館から報告があった内容も再度差し込んでみることにして、12月の専門部会に諮って、まとめを行ってはどうか。

大塚委員 最後の市民館事業に求めることというところについて、一番重要なまとめの部分に関して、まだここについて触れていないので、十分に話し合いをして、具体的にするのか、定義だけにするのか、求めることを記載する。SDGsと言われてもわからないだろうから、どうするか。

夏井委員 それを全部やってくださいということではなく、そういうことにも触れながら

事業を展開していったほしいということを記載してはどうか。
浦山委員 それではそういう流れで進めていく。

5 その他

次々回の日程調整を行い、以下の通り決定した。

次々回日程について、2月10日(土)もしくは2月18日(日)午後1時(幸市民館 第1会議室)欠席委員の都合を調整した上で後日決定する。

※次回日程は12月11日(月)午後2時(幸市民館 第1会議室)

6 閉 会